

PICK UP MOVIE



© NEW ZEALAND TRUST CORPORATION AS TRUSTEE FOR ELAROF CHANNEL FOUR TELEVISION CORPORATION TRADEMARK FATHER LIMITED F COMME FILM CINÉ-© ORANGE STUDIO 2020

ファーザー

The Father

[2020 年/イギリス・フランス/英語/ 97 分] 監督：フロリアン・ゼレール
 原作：フロリアン・ゼレール 出演：アンソニー・ホプキンス、オリヴィア・コ
 ルマン、マーク・ゲイティス、イモージェン・プーツ、ルーファス・シーウェル、
 オリヴィア・ウィリアムズ

本年度アカデミー賞 2 部門
 <主演男優賞> <脚色賞> 受賞！

名優アンソニー・ホプキンス最高傑作！
 老いによる思い出の喪失と、親子の揺れる絆を描く、
 かつてない映像体験で心揺さぶる今年最高の感動作！



[あらすじ] ロンドンで独り暮らしを送る 81 歳のアンソニーは記憶が薄れ始めていたが、娘のアンが手配する介護人を拒否していた。そんな中、アンから新しい恋人とバリーで暮らすと告げられショックを受ける。だが、それが事実なら、アンソニーの自宅に突然現れ、アンと結婚して 10 年以上になると語る、この見知らぬ男は誰だ？なぜ彼はここが自分とアンの家だと主張するのか？ひょっとして財産を奪う気か？そして、アンソニーのもう一人の娘、最愛のルーシーはどこに消えたのか？現実と幻想の境界が崩れていく中、最後にアンソニーがたどり着いた〈真実〉とは――？



[上映日程] 7/3~16 (休映：7/5、12)

老年期を、誇り高く生きたい

高齢になるにつれて、人はいろいろなものを失っていく。記憶力、体力、それに家族や友人たち。認知症というのは、脳の機能の一部を失う病気だという。

『ファーザー』は、認知症が進んでゆく父親の物語だ。監督は、脚本の段階から、主演はアンソニー・ホプキンスにと決めていたという。だから役柄の年齢も名前までも実際の彼と同じにした。アンソニー・ホプキンスといえば『チャーリングクロス街 84 番地』『日の名残り』などで、一見穏やかな風貌の内側に複雑な感情を秘めた人物を好演している。この名優を得たことで、認知症の人の心の世界が、いままでになくリアルに説得力を持って描き出された。

父親アンソニーは、ロンドンの瀟洒なフラットに一人住まいだ。身だしなみもよく、お気に入りのオペラのアリアを聞き、壁に飾った絵画を眺めながら、心地よさそうに暮らしている。だが認知症のせいか、娘が手配した介護人を受け入れるのも、娘が話す今後の計画などを理解するのも一苦労だ。私は一人で生活できる、手助けなどいらない、と強がる彼だが、次第に思考が混乱し、現実と妄想の境目もあいまいになっていく。彼の眼から見る周囲の出来事を追ううちに、観客もまた何が現実で何が妄想か分からなくなる。なるほど、認知症の人が抱える不安や混乱とはこういうものか、とはじめて実感が湧いた。

父親は弱さをも露呈するようになる。娘はそうした変化に戸惑い悲嘆にくれる。さらに父親は、娘を認識できているかさえさだかではなくなっていく。互いに深く思いやっているからこそ、それと裏腹に湧き出る寂しさと苦悩。老年期を誇り高く生きるとはどういうことか、深く考えさせられる作品だ。

tamura shizue

田村志津枝

ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977 年にファスビンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983 年からハウシャオシエンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。